



平成 24 年 7 月 24 日

報道各位

## 『CM 殿堂』入り作品 決まる

### 「つまらん」(水性キンチョール・2003 年受賞)など新たに追加

社団法人 全日本シーエム放送連盟

社団法人 全日本シーエム放送連盟（略称：ACC、東京都港区、理事長：永田 圭司）では、「第 15 回 ACC パーマネントコレクション（CM 殿堂）選考会」を本年 7 月 12 日に開催し、『CM 殿堂』に加える新たな CM 作品を選出、7 月 24 日に開かれた理事会で正式決定しました。

ACC パーマネントコレクション（CM 殿堂）は、歴史に残すべき、優れた CM 作品を永久に保存する制度として 1983 年に創設されました。これまで 14 回の選考会を経て 2001 年までの作品が選考されており、テレビ 63 作品、ラジオ 35 作品が“CM 殿堂入り”を果たしています。

今回は、選考委員長の小田桐昭氏をはじめとする 13 人の選考委員（別記）が、2002、2003、2004 年の作品および選考委員の推薦する過去の作品を対象に選考を行い、以下の作品を殿堂入り作品として選出しました。また、議論の結果、第 10 回選考会で殿堂入りを果たした日本コカ・コーラの「87 秋冬 ある一日 運動会」に、新たに 3 作品を加えることとなりました。

### テレビCM

商品名	題名	秒数	広告主	広告会社	制作会社	
水性キンチョール	つまらん	15	大日本除虫菊	電通関西支社	春企画	2003 年 ACCゴールド
カップヌードル	ベルリン/ 世界の王/ エルビス伝説	30× 3	日清食品	電通	ゲネプロ	2000 年 ACC金賞 ※第 14 回パーマネントコ レクション選考会申し送 り作品
ホットペッパー	スゴイヤん(大阪)／ たべました(大阪)／ 腹立ってきた(大阪)	15× 3	リクルート	電通関西支社	春企画	2002 年 ACC金賞

### 《追加作品》

商品名	題名	秒数	広告主	広告会社	制作会社	
コカ・コーラ	フィーリング 春編	60	日本コカ・コーラ	マッキャンエリクソン博報堂	東北新社	1987 年制作
	フィーリング 夏編	60	日本コカ・コーラ	マッキャンエリクソン博報堂	東北新社	1987 年制作
	Coke is it! 図書館	30	日本コカ・コーラ	マッキャンエリクソン博報堂	東北新社	1986 年 優秀賞



**ラジオ CM**

商品名	題名	秒数	広告主	広告会社	制作会社	
キューピー マヨネーズ	「ワールドマヨネーズ スペイン」/「ワールド マヨネーズ フランス」 /「ワールドマヨネー ズ 中国」	60× 3	キューピー	大広	大広	2004 年ラジオ ACCグランプリ
ブラバス	夫の香り/父の香り	90× 2	資生堂	博報堂	エフエム東京/ 福本ゆみ事務所	2002 年 ACC金賞

この殿堂入り作品を選ぶ本選考会は、3年に1度開催され、「CMとして効果的な役割を全うし、かつ表現技術に優れ、その時代に画期的な提言をしたもの。生活者やクリエイターに深い感銘や印象を与え、後世に伝える価値のある作品」を選考基準とし、選考年度から7年前（選考年度を含まない）に放送され、かつ3年間のACCブロンズ以上の入賞作品が対象となります。膨大な数のCMの中から厳選されたこれらの作品は、まさに日本のCM史に残る秀作と言えます。

なお、今回殿堂入りした作品は、11月1日に行われる今年度の2012 52nd ACC CM FESTIVAL 贈賞式・記念パーティで紹介されます。

以上

※ 参考資料

**【第15回 ACC パーマネントコレクション選考会 選考委員】**

選考委員長	小田桐	昭		
選考委員	早乙女	治	麻生	哲朗
	坂田	耕	井田	万樹子
	宮崎	晋	澤本	嘉光
	古川	裕也	谷口	宏幸
	林屋	創一	井村	光明
	早川	和良	山崎	隆明
	中山	佐知子		

**【小田桐選考委員長 講評】**

別紙をご覧ください。

**この件に関するお問い合わせ先**

(社) 全日本シーエム放送連盟 (ACC)  
〒105-0004 東京都港区新橋3-1-11 長友ランディックビル5F  
TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263  
ホームページ <http://www.acc-cm.or.jp>  
担当 : 小原



## 【小田桐選考委員長 講評】

'02~'04 パーマネントコレクション CMについて

選考委員長 小田桐 昭

テレビ CM は 3 本が殿堂入りを果たした。

最初に決定したのは、2003 年のゴールド、大日本除虫菊・水性キンチョール「つまらん」だった。たしかに、この年はどの企業も「地球環境に貢献する」を声高に言い合って、それ以外のメッセージは憚れるような所があった。キンチョールの自己否定的なユーモアはいつものことで珍しくはない。しかし、「エコロジー」の大合唱の中での「つまらん」は勇気のいることで、正義や建前の「いかがわしさ」とそれに「右ならえ」する世の風潮を蹴とばした痛快さはやっぱり凄い。

次に選ばれたのは、前回の選考会で申し送りになっていた日清食品・カップヌードル「ベルリン ほか」(2000 年金賞)。20 世紀の世界的な事件の中に、庶民的なカップヌードルがちやっかり割り込んでいる CM である。前回は評価が割れ、時間をおいてこの CM の価値を次の審査員に託そうということだったが、20 世紀の最後を飾るにふさわしい CM であると、見事に選ばれた。

3 本目は議論が分かれた。

リクルート・ホットペッパー「スゴいやん ほか」(2002 年金賞)と日本コカ・コーラの Fanta「ドラゴン先生 ほか」(2002 年金賞)が争ったがホットペッパーに決まった。

「アテレコ」という手法がそんなに新しいかという議論になったが、表現の見事さは普遍的な強さがあるということで決まった。ファンタについては、「今後に期待する」ということで見送られた。

ラジオ CM は、最初に選ばれたのが、キューピーマヨネーズ「ワールドマヨネーズ・スペイン ほか」(2004 年グランプリ)。音楽番組の中に溶け込んだ、音楽とナレーションのリズミカルなかけあいは、なるほどサラダのような軽やかさと評された。

次に選ばれたのが、資生堂ブラバス「夫の香り ほか」(2002 年金賞)。目に見えない「香り」が、人の心に働きかける様子を、ラジオならではの表現で見事に描かれ秀逸だった。特に、別れた妻がかつての夫の香りに動揺する「夫の香り篇」は評価が高かった。

前回の選考会では、残念ながら「該当作品なし」という、まさにラジオの危機を象徴するような結果だった。今回も、そうなったらという懸念がなかったわけではないが、2 作品を無事決定することができた。ラジオの未来にとっても杞憂に終わってほっとしている。

最後に、パーマネント入りしている日本コカ・コーラ「'87 秋冬 ある一日 運動会」に「'87 フィーリング春・夏」「'86 Coke is it! 図書館」を加えることで、当時の人々の熱狂的な支持を、より正確に伝えるようにした。

以上